



## 明治以降の山崎の年表（四）

大谷司郎

NO. 131  
平成30.8.26  
山崎郷土研究会  
兵庫県宍粟市山崎町  
大谷司郎

明治以降の山崎を中心とした出来事を年表にして四回目になります。今回は、昭和三年（一九二八）から昭和十七年（一九四二）までを取り上げます。世界恐慌から軍国主義の台頭、そして戦争への道を歩んでいく時代ですが、この時期に、篠の丸公園の整備と妙見堂が建立されています。八十年経った今もなお通称「一本松」への登山道は多くの市民に親しまれています。そのことに着目して整備等の経緯を追いました。

昭和十年（一九三五）山崎出身の木村説一氏から亡母の冥福を祈るため記念に残る事業をしたいとの申し出がきっかけとなり、篠の丸山に登山道や休憩所などを整備して公園化しようという予てからの計画が日の目を見ることになったのです。二年余りの時を経た昭和十二年五月十日、篠の丸公園の落成式が通称一本松で行われました。そして日を置かず同年五月二十三日には同場所で妙見堂の落慶式が行われました。

この公園整備の一切に関わったのが前野佐吉氏で、同人が発行し

た『播州山崎篠の丸公園と妙見堂』に篠の丸公園世話日記抄として日を追って完成までの苦労等と経緯が細かに記されています。時が経つて、昭和三十二年（一九五七）の『合併二周年記念号・町勢要覧』には、観光地として最上山と篠の丸公園が一番に紹介してあり、「当町に来て最上山に登らないものはない。それほど町の中心部を一望の下に見渡せる絶好の場所である」として、新山崎町になつても観光のスポットとしての位置づけは大きいものがあります。今、最上山は紅葉の名所となっていますが、経王堂や鐘楼堂のある付近の整備も是非していただきたいものです。

目 次											
明治以降の山崎の年表（四）	大谷 司郎										
福原謙七の思想について	鎌田 裕明										
福原謙七の生涯及び関連年表	高井 淳										
宍粟藩初代藩主池田輝澄の足跡をたどる	竹内 克司										
空中写真と地図（その二）	清水 哲										
戦争をしてはいけない	石野和雄氏の記憶										
豊前僧播磨公弁円の墓	伊藤 一郎										
鬼と生靈	田中 健三										
山崎歴史資料館（二）	浅田 耕三										
比地条里の研究	河本 雅視										
金谷の条里地割を中心にして	片山 昭悟										
会員・家族の文芸											
研修旅行のお知らせ・事務局だより											
編集後記・会員の著作紹介											
25	24	23	20	18	17	15	14	12	10	7	4

明治以降の山崎の年表(7)

西暦年	和歴	年	月	日	事項	出典
1928	昭和	3			上之町(山崎町元山崎)に南光坊別院建つ。	山崎郷土会報No.51
1928	昭和	3			荒神坂(元山崎)が桜の名所となる。	山崎郷土会報No.51
1928	昭和	3			最上山に前野善次郎翁の銅像が建つ。	山崎郷土会報No.51
1928	昭和	3	11		御大典祝賀行事に町民賑わう。各町催し物だんじりを出し、辻にわか、芸者の手踊り流し、旗行列、提灯行列など催す。	山崎郷土会報No.51
1928	昭和	3			婦人の耳隠しへアーチ流行する。	山崎郷土会報No.51
1928	昭和	3			山崎小学校北側の堀の埋め跡に塵芥焼却場ができる。	山崎郷土会報No.51
1928	昭和	3			この頃活動写真が来るごとに楽隊が賑やかに町廻りをする。	山崎郷土会報No.51
1929	昭和	4	1		山崎歌壇に「水壺山崎支社」を結成する。	山崎町史
1929	昭和	4	1	15	山崎幼稚園母の会設立発会式を開催する。	山崎幼稚園母の会『記録』
1929	昭和	4			姫路に本社を移した神姫バスが山崎姫路間の運行をはじめ、盛行を見せる。	山崎町史
1930	昭和	5	1		山崎歌壇の歌人社が短歌誌『歌人』を創刊する。	山崎町史
1930	昭和	5			野施行の風習漸次すたれる。	山崎郷土会報No.51
1930	昭和	5	7	20	前野修二氏が山崎町長となる。	山崎新聞(8月1日)
1930	昭和	5	9	11	山崎新聞創刊15周年を迎える。	山崎新聞(9月11日)
1930	昭和	5			神姫自動車本町にでき、山陽自動車と対抗する。	山崎郷土会報No.51
1930	昭和	5			木工学校廃校となる。	山崎郷土会報No.51
1930	昭和	5			山崎歌壇に山脈支社を結成。同人誌『山脈』を発刊する。	山崎町史
1930	昭和	5			町にカフェ一増える。料亭カフェに転向、芸者漸減し、女給	山崎郷土会報No.51
1930	昭和	5			漸増する。	山崎郷土会報No.51
1931	昭和	6	2	9	庄能村製材所より出火、類焼家屋あり。	山崎幼稚園母の会『記録』
1931	昭和	6			金縛、巷に不景気風吹き、カフェーは蓄音機で流行歌を流して、客を引く。	山崎郷土会報No.51
1931	昭和	6			演歌が流行盛んになる。	山崎郷土会報No.51
1931	昭和	6			山崎町上水道完成する。祝賀行事に芸者の手踊り流し町を行く。	山崎郷土会報No.51
1931	昭和	6	9		満州事変勃発。青年訓練所軍事教練盛んになる。	山崎郷土会報No.51
1931	昭和	6			もぐりの人身売買口入屋往行する。	山崎郷土会報No.51
1931	昭和	6			農村疲弊、窮乏する。	山崎郷土会報No.51
1931	昭和	7			山崎小唄できる。作詞野口雨情、作曲中山晋平	山崎郷土会報No.51
1932	昭和	7			歌人社を解散し、当時の歌人が結集して、山崎歌話会を結成する。	山崎町史
1932	昭和	7	3		肉弾三勇士の軍歌流行する。	山崎郷土会報No.51
1932	昭和	7			近年揖保川の筏流し漸減し、木材輸送は馬力、トラックに漸次切替わる。	山崎郷土会報No.51
1933	昭和	8	4		兵庫県山崎木工試験場として独立する。	山崎町史
1933	昭和	8	8		郷土研究会発足する。会報「ししさわ」第1輯発行する。	山崎郷土会報No.51
1933	昭和	8			「宍粟民謡」作詞野口雨情、作曲中山晋平で制作される。	広報しそうNo.17
1933	昭和	8			工業試験場と改称する。	山崎郷土会報No.51
1933	昭和	8			山崎町国防婦人会創立する。	山崎郷土会報No.51
1933	昭和	8	10		山崎町国防殿を建てて武徳殿を建てる。	山崎郷土会報No.51
1933	昭和	8			旧講堂を移築して武徳殿を建てる。	山崎郷土会報No.51
1933	昭和	8			山崎小学校講堂落成する。南の隅櫓姿を消す。	山崎郷土会報No.51
1934	昭和	9	9		兵庫県山崎木工試験場を改称して、兵庫県林業試験場となる。	山崎町史
1934	昭和	9	4		山崎出身の木村説二氏帰郷し、記念事業をしたい旨申し出	播州山崎篠の丸公園と妙見堂
1935	昭和	10	2	21	あり。(篠の丸公園整備のきっかけとなる)	
1935	昭和	10			青少年に軍事教育を徹底するため、実業補習学校を青年学校に改称する。	山崎町史
1935	昭和	10			山崎町軍友会創立する。	山崎郷土会報No.51
1935	昭和	10			山崎町の戸数1,385戸、人口6,878人	山崎郷土会報No.51
1935	昭和	10			泉龍寺の門、庫裏道路となり、萬沢への道路開通する。寺の名松の大木伐り倒される。	山崎郷土会報No.51
1936	昭和	11			郷土誌の編纂	山崎郷土会報No.51
1936	昭和	11	7		賀陽ノ宮殿下連隊とともに来崎される。	山崎郷土会報No.51

明治以降の山崎の年表(8)

西暦年	和歴	年	月	日	事項	出典
1936	昭和	11	10	1	鉄道省が山崎町に荷扱所を設置し小荷物の取扱を開始する。	山崎案内
1936	昭和	11			山崎町部落対抗野球盛んになる。	山崎郷土会報No.51
1936	昭和	11	11		共進会とともに小学校において郷土展覧会を開催する。歴史的珍品出品、書画、刀剣多数展示される。	山崎郷土会報No.51
1936	昭和	11			対篠荘東鹿沢にできる。	山崎郷土会報No.51
1936	昭和	11			俳人安井竹軒編の句集『松篠集』を発刊する。明治・大正期の山崎俳壇の句と小伝が載っている。	山崎町史
1937	昭和	12	5	10	古城篠の丸、公園化して、登山道でき、「篠の丸公園」落成式が挙行される。	播州山崎篠の丸公園と妙見堂
1937	昭和	12	5	23	篠ノ丸山妙見堂落慶式が挙行される。	播州山崎篠の丸公園と妙見堂
1937	昭和	12			山崎歌和会、草の実会育ての親、安田青風先生大阪へ行かれる。	山崎郷土会報No.51
1937	昭和	12	7	7	日中戦争はじまる。在郷軍人並びに補充兵続々応召される。	山崎郷土会報No.51
1937	昭和	12	9		初めて防空演習をする。	山崎郷土会報No.51
1937	昭和	12	9	11	台風襲来し、山崎小学校講堂のガラスが割れて児童負傷する。	本多家資料
1937	昭和	12			福原町に診療所できる。	山崎郷土会報No.51
1937	昭和	12	12		南京占領で、町民提灯行列をする。	山崎郷土会報No.51
1938	昭和	13			内堀北側の埋め跡に報徳花園設営される。	山崎郷土会報No.51
1938	昭和	13			豚の飼育始まる(山崎と城下で21戸83頭)	山崎町史
1938	昭和	13	7		阪神水害の被災地後片付けに山崎より勤労奉仕隊応援に行く。	山崎郷土会報No.51
1938	昭和	13	9		揖保川の水害により河東村で堤防・井堰が決壊し、田畠冠水する。	宍粟(宍粟地方事務所偏)
1939	昭和	14	4	1	菅野村内奥小屋村が西栗栖村へ編入される。	山崎町史
1939	昭和	14	4		米穀配給統制となる。	山崎郷土会報No.51
1939	昭和	14	6		旱魃により河東村で田27町が収穫皆無となる。同鳶沢村では植付不能のため収穫皆無となる。	宍粟(宍粟地方事務所偏)
1940	昭和	15	1		山崎閻斎ゆかりの地、西鹿沢通り町の元閻斎屋敷跡に、京都閻斎神社垂加靈神の分霊を迎える。閻斎神社の分社を建立する。	山崎郷土会報No.51
1940	昭和	15			時に、紀元二千六百年、大政翼賛会発会される。	山崎郷土会報No.51
1941	昭和	16			学校名が国民学校と改称され、軍国主義教育が徹底される。	山崎町史
1941	昭和	16			鹿沢が4町になる。	本多家資料
1941	昭和	16	9		水害のため戸原村で橋梁一流失、堤防決壊400m水田被害大なり。河東村では道路15ヵ所流失、堤防95ヵ所決壊、橋梁2流失、田畠冠水あり。	宍粟(宍粟地方事務所偏)
1941	昭和	16	10		山崩れにより山崎町で家屋3棟倒壊する。	宍粟(宍粟地方事務所偏)
1941	昭和	16	12		宍粟郡生活必需品商業協同組合が山崎町本町に発足する。戦時中統制物資の荷受け配給機関となる。	山崎郷土会報No.51
1941	昭和	16			米穀配給通帳制実施される。	山崎郷土会報No.51
1941	昭和	16	12	8	ハワイ真珠湾攻撃。大東亜戦争はじまる。	
1942	昭和	17			最上山に防空監視哨ができる。	山崎郷土会報No.51
1942	昭和	17	7		地方行政機関宍粟地方事務所が元郡役所跡にできる。前野修二氏が初代所長となる。	山崎郷土会報No.51
1942	昭和	17	10		前野猛夫氏が山崎町長となる。	山崎郷土会報No.51

# 福原謙七の思想について

鎌田裕明

福原謙七について、いざ紹介するとなると内容が余り多くてとまどつてしまします。例えば、著作については国立国会図書館デジタルコレクションで検索すると「二十二冊（註1）」がリストアップされ、その一冊ごとに著者の深い人生観照と日本近代の黎明期に山崎に生まれ儒学を学び、青雲の志を育んだ謙七の、教育や歴史にかかる思索と抱負が記されています。また、謙七の出会った友や師、そして

職や社会活動の中で知己となつた人びとを見ると政府の内務大臣や

文部大臣から県知事等に至るまで多岐にわたつてゐるのに驚きます。そこには数限りない明治・大正時代の緊張感と、厳しい政治や経済のダイナミックな展開の中で、誠実に、自己を曲げず生きた謙七の姿がみえています。

小論では、福原謙七の全体像に迫るため、彼の儒学の学びの深さ、次に政治・教育論を概観します。

## 一 学びの深さ

『重校改正刪定四書』は明治六年九月、官許印刷された本で、菊縁堂蔵（堺）版、朱熹著、横尾謙七（註2）点、とこの書に付けられた「書誌情報」にあります。刪定は『四書』即ち『論語』、『大學』、『中庸』、『孟子』について重ねて校正し、文章の不要な字句を削り、誤りを正したという意味です。時に謙七、三十二歳、飾磨県学区取締とし、教育行政の責任者（今日の市町教育長に当たる）

でした。その序（註3）に曰く「大権が古に復してよりの習説は、平穏簡易、進歩し易きものを目的とする。・他日この書の行わる」と、行われざるとに関係せん哉。ここには、新しい学びの時代の始まりの喜びと、書の発刊に当たるいささかの自負を感じます。そして、注目されるのはこの序の末尾に、後学横尾謙敬叙と記されていること、大阪を入れた堺で出版されていること、そして儒学の基本書中の第一にあげられる書の点者として記されていることです。三十二歳の謙七の書を、競争の激しい大阪商圈で、印刷業者が「採算がとれる」と踏んで出版したには学識、世評ともに他に比して遜色がなかつたからでしょう。

この中に収録されている『大學』について赤塚忠（註4）は、「古典としての価値を持つており、解決しようとするその時代の問題を背負っていた。国家の秩序を確立しようとするとき、それが道徳を基本とする限り、その一貫する体系を明らかにすることは緊要なことであった。」と書いています。福原謙七が生きた幕末から明治の時代は、まさにこの新秩序形成が時代の要請でありました。この意味で『大學』等を含む本書の出版は社会的要請に応えていたと言えます。

『四書』の出版に当たり点者であつた謙七は、漢学の豊かな素養と知識を以て多くの同学の士や師と出会い、意氣投合し、侃々諤々の論を闘わして社会的地位を固めていきました。謙七の人脈の豊かさはこの文脈の中で理解できます。例えば、松下村塾に学び、禁門の変では部隊を指揮し、次いで奥羽鎮撫総督参謀を経て、ドイツ公使、内務大臣を歴任した長州出身の品川弥二郎との交流、それは竜

野での講演会開催と講師としての招致、残された書簡などで裏付けられるところですが、残念なのは彼が明治三十三年（一九〇〇）に病死したことでした。

また、氷上郡の田艇吉は郡長時代五年間をともにしました。彼は、衆議院議員や阪鶴鉄道社長を務め、柏原の火力発電所開設に尽力するなど地域の発展に貢献し、「福原謙七翁碑」の見事な撰文でも知られています。

## 二 『教憲衍義』について～政治・教育論

教憲について詳しく述べるという意味の『教憲衍義』（以下『衍義』と略します）は奥付によると発行は明治二十六年十二月。著者福原謙七、発行所は山崎町の「私立靖獻義塾」でした。題字は時の文部大臣大木喬任と兵庫県知事周布公平、序文は宍粟郡長笠井彰（註5）でした。大木は題字（下欄写真参照）に「順惇吐獨 敬神愛國之正志」、周布は「行義以達其道」と記しこの書のスタンスを明確にしめています。驚きは、国の文教トップが題字を寄せていることです。社会的な期待の強さと謙七のこの書にかける思いがうかがえます。

この書の出版は日清戦争の八ヶ月前で、物情騒然とした時でした。日清戦争は朝鮮で減税と排日を掲げた農民反乱が起こり、極東の安定を理由に日本が出兵し、同じく出兵していた清と、朝鮮の内政改革をめぐって対立し戦争に至つたものでした。この頃の課題は民心を糾合し愛国への意識高揚を図ることでした。この書にはこのようない代認識がうかがえます。

この時、謙七は現高砂市を中心に姫路市、加古川市に及ぶ二町九十六村（明治十七年現在）を束ねる印南郡長を辞して九年を経て、

この『衍義』に彼の政治への思いを込めていたと考えられます。

『衍義』は、敬神愛国、天理人道、皇上奉戴の三條よりなる和綴じ七十四丁の本です。表紙の書名の欄に修身必需、治國須要と記され、その左に私立靖獻義塾講師福原謙七集著と記されています。私はこの集書の「集」という表現に、この書に引用した先行する六人部



左は大木喬任文部大臣の題字。本文参照

に学び、それらを集め著述したという意味です）。（註6）

この書の本文冒頭には「敬の工夫躬行には主一無適を至要とする。

主一之を敬といい、無適之を一といふ。・敬は一身の主宰、万事の根本なり。」と記しています。これは阿部隆一（註7）が「朱子

学派の有名な敬の字の根本解義」とする「敬は主一無適の謂なり」、「謂ふ所の敬とは一を主とする之を敬と謂ひ、謂ふ所の一とは適くこと無き之を一と謂ふ」即「一つのことにつき心を集中し他に適かぬこと」と同じです。また、闇斎（註8）が『敬斎箴講義』を「それ敬の一字は儒学の始めを為し終わりをなすの工夫」と書き始め、『敬斎箴』日本版につけた序に、「人の一身五倫備わりて、身に主たる

は心なり。この故に心敬すれば、即ち一身修まつて五倫明らかなり。」と述べるのと同じスタンスであり、軌を一にしています。これは謙

七の「主一無適」に関する認識の高さを示すものといえます。

『衍義』によれば、第一に敬神愛国は国家観、第二に天理人道は道德観、そして第三に皇上奉戴は天皇を中心とした内政・外政の基本理念ということで、これに依って修身と治国を行うということです。この三つは「三條」と表現され、「國体遵奉の靈枢なり、制度活用の根源なり、政教一致の首腦なり、人心維持の標準なり」と説明されています。(註9)

次に、天理(註10)についてです。「天理は自然にして間断するところ無く・萬古不易已むこと無し。・萬古不易の者は理なり。」

このような理は体・本質であり、義は用・形に表れたものです。また、「事に従い物によつて天御中主神とか上帝、天主といつてゐる」と。ここまでくると謙七の朱子学的世界観のユニークな展開に辟易してしまいます。

人道については、人は生きていく上で五つの人間関係を取り結びます。謙七の時代では君臣、親子、夫婦、長幼そして朋友。そのあるべき形を義、親、別、序、信としています。さて、この五つの人間関係を萬古不易の事実として守り、育んでいくべきだと、謙七は説いています。

氷ノ山に源を発する揖保川と、城址とともに市街地を見下ろす一本松や最上山、豊かな四季の彩りの中で展開した歴史と文化に恵まれた山崎で、謙七が人びとの暮らしの在りようや地域と国の未来を、そして家族や友人などの関係性を繋ぐ絆について思考し、心を込めて書を著し、世に問うたことを、私たちは深く受け止めねばならないと思うのです。

## 註

1 本紙収載の高井淳氏『福原謙七の生涯及び関連年表』参照

2 福原と横尾の姓については『山崎郷土会報』130号五頁参照

3 「重校改正刪定四書」は十巻、そのうちの『大學』収載の序から引用

4 赤塚忠『大學・中庸』平成十九年明治書院 三六頁

5 福原謙七『教憲衍義』私立靖献義塾明治二十六年発行 国立国会図書館デジタルライブラリ所蔵

笠井彰は序文の中で「細節に至りては議論なきにしもあらざれども風教上大いに賛助する・・・」と記している。「なきにしもあらず」は意味深である。

6 福原謙七『皇朝靖獻遺言』著者名の欄には「横尾謙纂集」とあり、このスタンスは二〇年後も変わっていない。国立国会図書館デジタルライブラリ 所蔵

7 阿部隆一『敬説筆記』一〇二頁註『山崎闇齋学派』 日本思想大系三一 岩波一九八〇年版

8 山崎闇齋『敬斎箴講義』八〇頁『山崎闇齋学派』前掲

9 福原謙七『教憲衍義』一丁・五六丁 前掲 福原謙七は触れていないが、安

丸良夫『神々の明治維新』一八二頁岩波新書 二〇一八年版は「明治五年神官教導職が置かれ、三條の教則が定められた。江藤新平の起草になり國体神學の教説を引き継ぎながら神仏各宗が受容しうるような一般的な規範に組み替えた。」と説明している。条項は同じであるが、内容の比較をしていきたいと思っています。

10 福原謙七『教憲衍義』二八〇四三丁 前掲

# 福原謙七の生涯及び関連年表

木崎愛吉『篠崎小竹』（【附載】後藤松陰）大正十三年 玉樹香  
文房出版

高井 淳

福原謙七研究をするに当つては全体像を把握し先行する研究の概要を取りまとめ、そこで論究される個々の資料を探し、それを読んで整理しまどめる事から始めた。しかしこれは限りなく長く途方もなく広い文献の海に直面することになった。そこでこれを乗り切るための手段として作つたのがこの「年表」である。

## 一年表作成の目的

福原謙七の生涯を中心として天保十二年（一八四二）に始まり大正十三年（一九二四）に至る八十四年間を一覧し、関連人物を位置づけ繋がりを実証、確認する便を図り、調査研究の手掛かりや全体構想及び研究指針作成の基礎資料とする。

## 二 年表の見方

福原謙七について、その生涯とこの間に出会い交流し触発され、師事した師、そして同門の士、更に後に続いた人たちを時間軸の上に位置付けている。本表では主に師とした人達について重点的に纏めた。学び、師事し或いは交流の可能性がありそうな期間は網掛けで示した。また、時期が確定できない個所は波線で記した。

## 三 参考文献

田艇吉「福原謙七翁碑」碑文

田住豊四郎『兵庫県人物史』明治四十四年県友社出版

島根県学務部島根県史編纂掛『島根県史九』昭和五年島根県出版

渡辺弗措他『弗措先生及び遺稿』大正十一年 渡辺望出版  
松井拳堂『丹波人物志』昭和三十五年（八月）刊行会出版

兵庫県教育委員会『郷土百人の先覚者』昭和四十一年七月一日  
阪谷朗廬『阪谷朗廬先生五十回忌記念』昭和四年 阪谷芳郎出版

田健治郎伝記編纂会『田健治郎伝記』昭和七年六月二十日 田健治郎伝記編纂会出版

兵庫県『兵庫県郡役所事績録中巻』昭和二年三月 兵庫県出版  
『山崎町史』、『兵庫県宍粟郡誌』、『姫路市史十二巻』  
『国立国会図書館デジタルコレクション』の蔵書

## 四 今後の課題など

今後、福原謙七については著作の講読、松本巖・阪谷朗廬の塾の門人名簿及び山崎町内の関係者の確認、そして学んだ塾の現状確認、また品川弥二郎の書簡精査、等である。更なる新しい資料の発掘を含めて研究を進めることも大きな課題と考えています。

調査にあたつて共に資料調査したのは松下宣夫さんで、宍粟、たつのや姫路の図書館その他石碑等に出向き資料収集分析まとめにと互いに協力し合った。また山崎闇斎研究会会长の鎌田裕明さんには、多くの重要な助言と指摘を頂いた。他には、市の教育委員会次長田路正幸氏に『郡役所文書』をはじめ諸資料について御教示を頂いた。記して感謝申し上げます。

# 及び関連年表

高井 淳

平成30年7月17日

大正 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 昭和 2 3 4																										
1890					1900					1910					1920											
5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
内閣制度制定	市制・町村制公布	大日本帝国憲法発布	第一回帝国議会	日清戦争	三国干涉	治外法権撤廃	七博士の意見書	日露戦争	大逆事件	第一次政変	第一次世界大戦	五・四運動	ワシントン会議	「福原謙七翁碑」建立	第二次陸續運動	世界恐慌										
45歳	54歳	64歳	84歳																							
山崎	品川弥二郎の知遇を受け 到底興業に注力、安田の 林業振興に努める					大阪に居居、多くの人に鍼灸の施術をし 又「顎突」と称し著作吟詠に過ごす					重野安繩と交流					1926没					大正十三年二月六日逝去（享年八四）					
21	『孫氏評註余談』	26 27 28	『殉公実業起業信組合署名』	『教員衍義』	『國權同盟会趣意書』	33	『施行年不明』	『真宗・日蓮宗・釋宗各宗大氣焰』	『緊急警察』	『危機一髪』	『冒險致富大策』	42	『灸の光』（第一・二編）	3 3	『日蓮聖人十厄勢基譜』	『千載一遇舉國一致神州』	87歳	1938没	謙七翁碑の碑文を作る	87歳	1930没	謙七翁碑の碑名を撰寫	87歳	1930没	謙七翁碑の碑名を撰寫	
40歳	44歳	53歳	59歳	62歳	65歳	69歳	75歳																			
埼玉県	東京通信省書記官	住友銀行副支配人	阪本店支配人	阪鶴鉄道第三代社長	南国電燈会社を興し火力	大領市会議員	貴族院議員																			
43歳	49歳	50歳	1900歳	58歳	64歳	70歳	76歳	82歳	88歳	94歳	100歳	106歳	112歳	118歳	124歳	130歳	136歳	142歳	148歳	154歳	160歳	166歳	172歳	178歳	184歳	
ドイツ駐独公使子爵叙爵	宮中顧問官	内務大臣	信託組合・産業組合に尽力	1900歳	1906歳	1912歳	1918歳	1924歳	1930歳	1936歳	1942歳	1948歳	1954歳	1960歳	1966歳	1972歳	1978歳	1984歳	1990歳	1996歳	2002歳	2008歳	2014歳	2020歳	2026歳	2032歳
東京帝國大学教授	『續年日本外史』					明治40年万葉1916歳					学士会院選官 組合参加（ウォーン）															

## 福原謙七の生涯

謙七は天保12年8月2日播州山崎町伊澤町の米穀商横野儀右衛門の家に生まれる。初めは隆蔵、練蔵そして謙七と称する。明治14年には福原の姓に戻し福原謙七と名乗る。

### 明治6年以降の著作 (数字は年号)

『日本經濟立志編』	14
『活基督教』（上・下巻）	6
『文章入門』	6
『地球四字經』	6
『和言學經』	6
『世界節用無盡藏』	6
『皇朝靖獻遺言』	6
『重校改正副定論語』	6

	10歳	18歳	25歳		26歳
			中綱長、区長となる 福知山文府の職吏	子葉県副 柏原に帰郷	3月東陸会議員 10月水上郡長 越後坂トンネルに尽力
1852生 柏原出身 【田 越吉】	柏原 小島省斎に入塾	右院 代になる			
	7歳	10歳		20歳	22歳
1855生 柏原出身 【田 健治郎】	長沢貞順に 就書習字 篠山渡辺弗措に入塾	篠山 徳山 江戸 篠山渡辺弗措の養子 柏原徳郎 篠山 駿	和田山 太田家 の養子	熊谷県出仕 愛知県判任官 名古屋裁判官	高知県警 警察 川
	15歳	22歳		28歳	39歳
1843生 長州出身 【品川弥二郎】	萩 松下村塾	禁門の変に参戦 奥羽鎮撫總督參謀	欧州 英独留学	ドイツ 独公使館	東京 内務大書記官少輔 勤業政策指導
22歳	31歳	42歳	45歳		
1827生 薩摩出身 【重要人物】	江戸 昌平塾に入る	薩摩	大阪 成道書院 開塾	東京 文部省、大政官	東京学士会院

# 宍粟藩初代藩主池田輝澄の足跡をたどる

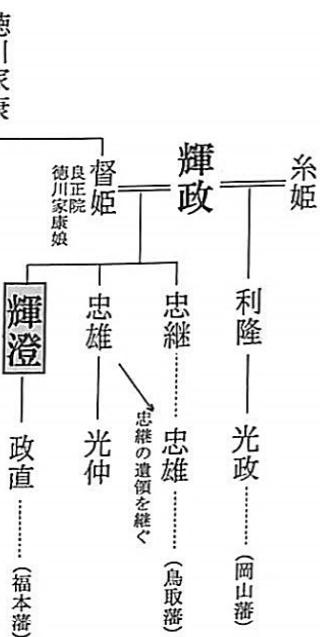
竹内克司

## 輝澄、宍粟郡入封前に相次ぐ父母兄弟の死

池田輝澄は慶長九年（一六〇四）姫路城主池田輝政の四男として姫路に生まれ、元和元年（一六一五）六月二八日に播磨国宍粟郡三万八千石を受領し、初代宍粟藩主となつた。輝澄が若干十二歳であった。二年前の慶長十八年（一六一三）父輝政の死去により遺産配分や相続が決められたが、一年後の元和元年に母督姫（徳川家康娘）と兄忠継が亡くなつたことにより、輝澄が宍粟藩を立てることになつた。

輝澄は山崎城を建造すると母と祖母（西郡の局）の菩提寺である青蓮寺を姫路から山崎町山田町に移転している。入封直前に母の死があつたからである。

## 池田家略系図



寛永三年（一六二六）輝澄は京都の二条城で乗馬の達者に選ばれみごとな馬芸を披露し大御所（秀忠）、三代將軍家光から褒美を受けた。若き輝澄は山崎城の南の段丘下の東西一二四間（約二百三十m）の「桜の馬場」で、日々馬術の鍛錬をしたのに違いない。

## 家中騒動の概要

輝澄は寛永八年（一六三二）弟赤穂藩主政綱が没し、佐用郡二万五千石が加封され六万三千石となる。その二年後参勤交代の途上、病に倒れてのち江戸住まいとなつていていた。国元には上席家老伊木伊織が藩政を預かっていた。そんな最中の寛永一五年（一六三八）藩を搖るがす家中騒動が起きた。元は小頭と足軽の金錢の貸し借りりといふ些細なもめ事であつた。一旦は収まつていたのだが、内部裁定に対する不満が再燃し、古参の家老伊木伊織と新参の家老小河四郎右衛門の争いとなつた。輝澄の側近にいた菅友伯（儒学者）が主君輝澄に事実を伝えず、偽書まで作成し小河家老に加担したことが騒ぎを拡大させていった。一門の岡山藩主池田光政が元のように伊木に職を勤めさせ静かに治めるよう申し入れるが、輝澄は聞き入れず、伊木家老等が集団脱藩するという事態にまで発展し、結果幕府は脱藩者及び友伯や当事者に厳罰を処し、宍粟藩は改易という厳しい裁定が下されたのである。

## 輝澄因州鹿野に蟄居

「諸事集書」に、改易の理由として次の三つが輝澄に示された。

西郡の局

一惣領虎之介（輝澄二男）病氣不申上事

一家中仕置悪ク騒動之事

一門之異見不聞事

注目すべきはこの三つ目の異見不聞事で、幕府は輝澄が池田一門の説得を拒んだことをあげており、逆に言えば池田一門への信頼があつたことを表している。

改易された藩主輝澄は堪忍料一万石を与えられ、因州鹿野（鳥取市鹿野町）へ蟄居を命じられた、兄忠雄の子鳥取藩主池田光仲にお預けとなつた。

さらに「諸事集書」には、「石見守乱心之躰相聞候」、「万事心付差置候様家来共申付」とあることから、幕府は光仲の家来にも輝澄は乱心している状態なので、厳しく扱わざ気を付けるよう指示している。蟄居といえども自由度の高い配慮を求めているのである。

それを裏付けるかのように輝澄が湖山池周辺に鷹狩りに出かけたことが書状に残されている。

#### 蟄居の赦免と政直の福本藩立藩

明暦四年（一六五八）輝澄四男政直が光仲・光政（岡山藩主）の願いにより赦免され、江戸に召し出され、第四代將軍家綱に拝謁した。「控帳」には同年輝澄は改易後初めて鳥取城へ登城し、鳥取の東照宮御祭礼にも出向いている。この頃名実ともに父子の蟄居が赦免され、以後行動が活発化している。

寛文二年（一六六二）輝澄死去、享年五九歳であった。政直は父輝澄の遺領分一万石を相続し福本藩を立藩したのである。



鹿野城跡公園



輝澄居住時代の庭園（光輪寺）

將軍家光は厳しく大名統制をすすめ、多くの諸藩が改易されるも、宍粟藩は徳川縁故の例外を許さなかつた。ただ、藩主の処分に関しては甘く、おだやかな隠居的対応であり、そこに將軍家の恩情があり、そのため石入と号したのは蟄居が起因になつたと広く一般に理解してきた。しかしそうではないことがわかつた。鳥取藩の勤番家老による日記「控帳」から慶安四年（一六五一）に夫人が亡くなるまでは従来通り石見守と称し、夫人の死去から石入と号したことなどが明らかになつたのである。このことは輝澄の一面を知るうえで重要である。

夫人の死と同年に輝澄と同い年である將軍家光も死去した。

※この記事は「城郭研究室年報」vol 26に掲載された『「諸事集書」と池田輝澄について』、鳥取県史編纂委員の伊藤康晴氏の研究内容を元に作成したもののです。

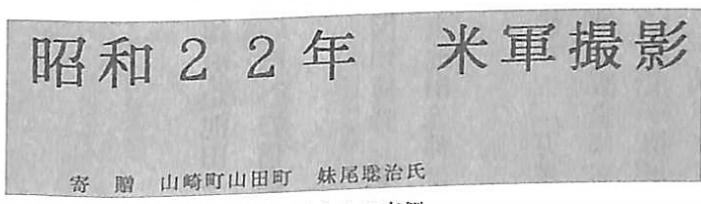
## 空中写真と地図（その1）

清水 哲

### 1、お宝画像



パネルを斜めに写したもので下の方が少しせまくなってしまった



寄贈 山崎町山田町 妹尾聰治氏  
パネルの裏側

山崎歴史郷土館には私にとってお宝映像がある。昭和二十二（一九四七）年に米軍が山崎上空から撮影した写真だ。パネルの裏には寄贈・妹尾聰治氏と書かれている。何かの展示に使われたのだろう、愛宕山から望む郡是工場の写真のパネルと一緒に2階のロビーに置かれている。私はもみじ祭で歴史郷土館の当番をした時にデジカメで写しパソコンで拡大して見入っていた。

パネルの写真の範囲は、北は生谷橋付近、南は城下中井集落、東は出石、西は門前までおよそ2km四方である。米軍が飛行機で撮影したもの的一部だろう。もの写真は、国土地理院のホームページの「空中写真閲覧サービス」で見ることができることを、市教育委員会の片山氏に教えてもらった。

### 2、道路

宍粟橋～中広瀬～清水口～総道神社～東和通り～庄能集落を抜け三津・さらに郡北部へという幹線道路が見える。大歳神社から生谷橋まで北に向かう直線的な道もはつきり見える。この両方の道は、一七世紀後半の池田数馬の頃の城絵図にはそれぞれ「五十波海道」「井沢海道」の名で書かれている。

本多藩記念館所蔵の天保十二（一八四一）年の城絵図は武家屋敷の地域しか描かれていらないが、翌十三年の町人作成の町屋地域絵図には郡北部への道が書かれている。この二つの道はそれぞれ「是ヨリ川奥江入ル道」「是ヨリ伊澤谷江入ル道」と記されている。

今の中央商店街を北に抜ける道は、天保町絵図では泉龍寺の所までだったが、この空中写真では庄能まで達している。

中川医院前を生谷橋まで続く現在の交通頻繁な道路は、昭和二十二年のこの写真にはまだ影も形もないでこれ以降に造られたのだろう。

山崎の市街地を東西に貫く山崎南光線という主要道路も、この空中写真にはない。この道路は、昭和三十八年頃の工事整備中の写真が残されている（勿論国道二十九号線も写つてはいない）。

### 3、一本松への道と上寺淨水場

一九四七年の空中写真では、千畳敷や付近の道は今と同じ。そこから一本松へグネグネと登る道筋も今と同じで、昭和十年頃にできたと聞いた。上寺に新淨水場が竣工したのは昭和五十一（一九七六）年だ。その前のあの辺りの風景はどうだったのか思い出せなかつたが、この写真を見ればあの谷間は奥まで棚田だったことがわかる（知つている人には何を今さらだが）。

当たり前のように見慣れた風景は、わざわざ撮影されることもなく、七八十年も経つと誰も知らない、ということになる。

### 4、空中写真の季節

写真をパソコン画面で拡大し虫眼鏡で丹念に見ると田に稻木が架けられている。晚秋であろう、撮影日は十一月一日だそうで、影の具合から午前十～十一時頃か。

盆地を囲む山々の尾根筋の道や登り道もよく見えるのは、秋で広葉樹が落葉しているからだ。現在このパネルは、郷土資料館二階のロビーで平成二十二年の空中写真と並べられ、今昔を比較できるようになっている。最近の写真は夏場のためか樹木が生い繁り一本松の道も上空からは写つていない。

昔の宍粟・龍野・太子を示す写真集を見ると背景の山々は今ほど繁つていいない。江戸時代のよう草木を肥料にすることはなくなつても、昭和三十年代までは里山で燃料の薪を取つていたし、植林された樹木はまだ伸びていない。昭和四十三年の冬、段集落の道端に自転車を止めて春安集落を見下ろす高い山の頂上に登つたが、人が通

る山道は十分使われており迷うこともなかつた。

写真の一本松部分を拡大してみると、冬のため樹木の繁りは少ないので、篠の丸城の曲輪が確認できる。平成二十五（二〇一三）年末のレーザー測量の結果ほど明瞭ではないがかなりはつきりしている。

尚、米軍による空中写真は、圃場整備前の条里制遺構の確認にも参照されると聞いたが、私はそれとは別のこと気がなつた。それはまた次回に。



国土地理院HPから印刷→デジカメで撮る→それを取り込んだもの  
国土地理院のHPで実物をご覧いただければ幸いです。

## 戦争をしてはいけない

— 石野和雄氏の記憶 —

伊藤一郎

昭和二年十二月生れの石野さんは、満九十歳になつておられます。子供の頃賑やかだった山崎町の思い出は、地獄谷と言っていた東和通りを歩くときに、親から「夜になると店の前できれいな女人が出てるが、あの人はキツネが化けているのだからだまされないように近づくな。」と強く言い聞かされたことです。

地獄谷と言われた地区は東和通りの北側で、現在の旭町の当りにあり、カフェや飲み屋が立ち並び「新天地」とか「カフェツバメ」などの店が連なつていたとのことです。

石野さんのお父さんは、庄能で木材業をされていたとのことで、宍粟の山奥から筏流しで木材を運んでおられたので、木材に印をつける鉄製の「墨付け」を使われていたとのことで、今も大事に残されており、拝見させていただきました。

小学校の高等科の時に太平洋戦争が始まり、ラジオでの真珠湾攻撃の放送を鮮明に覚えているとのことでした。「臨時ニュースを申し上げます。臨時ニュースを申し上げます。大本営発表帝国陸海軍は、今日八日未明西太平洋に於いて米英艦隊と戦闘状態に入れり」この後は軍艦マーチの連続だったとのことです。

高等科を卒業して兵庫県立工業高等学校第二本科電気科を二年で卒業し、大阪無線電機通信工事局神戸分室に就職。仕事場は神戸駅

南にあつて、毎日軍用列車が兵隊を乗せてノーストップで何台も通りすぎるのを見送ったとのことです。当時の寮との定期券を拝見すると、灘と六甲道間三ヶ月八円一〇銭でした。昭和二十年六月五日の神戸大空襲の時には、寮が直撃を受けて周りが火の海になり、風呂の残り湯を飲みながら避難したとのことで、道のアスファルトは熱で溶けて革靴がめり込んだと言われました。多くの死体の山を見たとのことです。話された後に石野さんは「戦争をしてはいけない。してはいけない。」と強い言葉で言されました。今もその恐怖から、風呂の残り湯は朝まで置いておられるとのことです。

一九八五年十一月一日朝日新聞「神戸大空襲米国から新資料」の記事を大切に保管されています。その内容は、昭和二十年三月十七日の夜間大空襲の場合、大本営発表はB二一九が六〇機きて二〇機墜し、残りの爆撃機の大半にも損害を与えたことになつており、「神戸市史第三集」でも六九機が飛来したとされている。しかし、米軍の「爆撃報告書」によれば三三一機のB二一九が出撃し、うち三〇六機が爆撃に加わり、基地に戻らなかつたのは三機だけだった。使つた焼夷弾は一〇三四九発、二三三一八トン。午前二時三十八分から同四時四十六分まで爆撃を続け、七・七七平方キロが被災した。六月五日朝の大空襲では、大本営発表も「神戸市史第三集」もB二一九が三五〇機としているが「爆撃報告書」では四七三機で四一五七五発の焼夷弾投下と記録されている。

戦後、石野さんは山崎に帰郷し、兵庫県林業試験所の木工部に就職されたが、健康を害し、昭和二十八年に退職し、体の回復を図つたのちに伊丹の職業訓練所で当時出創めた白黒テレビの技術を学び、

現在住まわれている福原町にて電気店を営業されました。今は電気店を辞め、店舗を近所の住民の憩いの場に提供されています。

## 豊前僧播磨公弁円の墓

田中健三

### 戦時災害罹災者證明書

神戸 嵐山本通五丁目六番屋敷

氏名 石野和雄

名

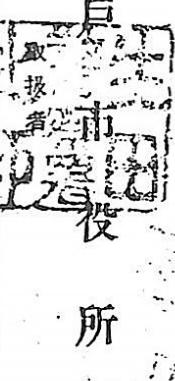
右戦時災害罹災者タルコトヲ證明ス

昭和二十年八月四日

神

戸  
主  
印  
押  
印

所



延暦二年（一二一）に常陸国（茨城県）の国主、佐竹秀義に招かれて法徳院（佐竹秀義公が領内の久慈西の郡塔の尾村に建てた國中安穩の祈願所）の先達となつた。寺領五百国（石力）を賜り、末派三十五坊と門弟一〇〇余名を従え、関八州の総氏となつてから弁

川戸にある。  
弁円は、平家の直系で太政大臣清盛の嫡男、内大臣宗盛の一子能宗と記されている。今から八三〇余年前の治承四年（一一八〇）に京都で生まれ、幼名は珠王丸と名付けられた。三歳の時、都で当時流行していた疫病から逃れるため、母とともに母の故郷の山崎町川戸字奥所へ帰り着く。その翌年母が亡くなつたため川戸の祖父母に育てられたと伝えられている。八歳の年三月には平氏一族悉く壇ノ浦に破れ、父宗盛、兄清宗ともに近江の篠原で頼朝に討たれた。その後祖父母も亡くなり孤独となつた珠王丸は建久六年（一一九五）の秋、十六歳の時に播磨国を離れ、京へ上つた。十八歳の時、聖護院宮法親王を訪ね修驗道の苦行に励む。間もなく一坊を司り豊前僧

播磨公弁円と名乗るようになり、その後山臥弁円の名は全国に伝わつた。

石野和雄さんの戦時災害罹災者證明書（写し）

円の名声はいよいよ高くなつた。

しかし、親鸞聖人が建保五年（一二一七）に常陸国に入ると、当時うち続く戦乱や度重なる凶変と災難に疲れ果てていた民衆にその教えが広まつていつた。弁円一派から人心が離れていたため、また、親鸞は源氏（日野の御曹司）、弁円は平家という宿怨から、弁円は親鸞聖人を嫌悪し、三十五名ほどの輩下で害そと企てる（板敷山の変）が、懺悔し仏門に帰依し、親鸞聖人の弟子となつた。

「怨となりし弓箭も今はひきかへて 西に入るさの山の端乃月」

その後、親鸞聖人より「明法房」の法名をつけられた。弁円四十二歳のことである。嘉禄二年（一二三二六）に塔の尾に帰り猶原の法徳院の近くに一字を建立。これが常陸法専寺である。そして、建長三年（一二五二）十月十三日に七十二歳で亡くなつた。

弁円は弟子の吉祥房に自分の遺骨を播磨の国川戸の里にも葬るよう遺言していたので、川戸に小さな五輪の塔を建て、傍らに草庵を建てたと言われている。現在の五輪塔は、正徳二年（一七一二）に村人が建立したものである。

参考 「常陸法専寺略史」

「山崎郷土研究会 会報第六号 『辨圓の墓』

同第八号 『辨圓の墓（下）』」

「ふるさと戸原」



川戸弁円説明板



川戸弁円墓

# 鬼と生靈

(六月三日文化協会でのはなしのこぼれ)

浅田耕三

怪談というとなんとなく聞きたくなる。「こわいもの見たさ、聞きたさ」である。

今から千年昔の人たちも、やはりそんな好奇心にあふれていたのだろう。科学文明の未発達の時代である。人知を超えた非日常、非現実の現象に目を見張り、耳をそばだて、人にしやべり、そしておそれた。

その、おそろしく、あさましきものが鬼であり、物怪であつた。

平安後期に成立した『今昔物語』と鎌倉時代初期の『宇治拾遺物語』などの説話にはその鬼がわんさと出てくる。

体が緑青色、あるいは赤銅色に光り筋骨隆々、頭に二本の角、大目玉に鋭い牙をむいているのが定番だが、この説話に出てくる鬼たちはそうとは限らない。

物腰たおやかな、若い美しい女性に化けた鬼もいれば、眉目秀麗の品のよい青年もいる。もの堅い役人の鬼やら、世話好きな老婆に身をやつしながら眠っている赤ん坊を覗き込んで、「ああうまそう、ただひと口」と呟き舌なめずりする無気味なものもいる。かと思うと玄象という琵琶の名器を宮中から盗み出して、羅生門の上で妙なる音をひびかせる、文雅な鬼もいた。

まさに変幻自在、櫃の中にひそんでいて蓋をわずかにあけてその

すき間から出入りするような芸当もやつてみせる。

その時代の人々は想像力が豊かであった。特に下層の、一たび飢饉や疫病に見舞われると遺骸が累々と路傍にうち棄てられるような冷酷無慚な環境の中でも大衆は鬼や物怪の話に興じたらしい。

その庶民の『今昔物語』に比べて上流貴族の男女の恋を描いた『源氏物語』には、鬼も蛇や狐の変化もでてこない。かわりに出てくるのは死んだ人の靈と生身の靈魂である。

死人の靈は三遊亭円朝や鶴屋南北の怪談嘶以来私たちは馴染んでいるが、生きている人の靈の話はきかない。

ところが『源氏物語』では、六条御息所の生靈が夕顔や葵の上にとり憑き殺してしまう。色好み光源氏の愛人となつた女の苦腦がこんな生靈を生むのである。

ただし、この生靈は作者紫式部の創作ではない。この時代の人は菅原道眞や早良親王の死靈にも怯えたが、生靈にはもつとおびえた。死靈は御靈神社に祀つて慰めることもできたが生きた人間の靈は慰めようがなかた。

例を挙げるなら撰政藤原伊尹は犬猿の仲だった藤原朝成の生靈におどされて四十九で死ぬまでおびえつづけた。

また栄耀栄華の絶頂をきわめた藤原道長は蹴落としたあれやこれやの政敵と身内の靈にさえおののき、病苦の上に墮地獄の恐怖の最期を迎えた。

まさに怨靈跳梁の平安期であった。

参考　日本古典文学全集「源氏物語」「今昔物語」

## 【山崎歴史郷土館】（一）

河本雅視

また、基壇の跡なども確認されています。

これらの展示物からどんなことが読み取れるでしょうか。

千本屋廃寺の解説文によりますと「発掘調査で、基壇や遺構が確認され、東西に塔と金堂を配置し、北に講堂が並び、南に門がつき、建物の周囲を築地が囲む法起寺式の伽藍配置が想定される」とも記されています。これらの資料を見て、山崎地域にも仏教文化が導入されて金堂・講堂・塔等を、築地塀で囲まれた立派な寺院が建てられていましたことが想像されます。

①飛鳥時代（六世紀末～八世紀初期）～奈良時代（七一〇～七八四）

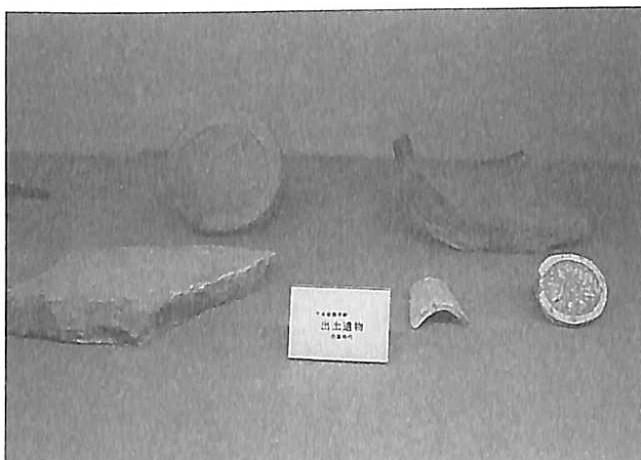
六世紀の飛鳥時代は中国から仏教が入って来た時代であり、聖德太子たちが仏教の興隆につとめました。そして四天王寺・法隆寺等が建立されました。

この頃の山崎地域の様子はどうでしょう。

郷土館の展示物を見ますと、寺院跡の伝承地であつた千本屋

廃寺跡（現在地は貴船神社の北側・薬師堂周辺）から出土したという白鳳期から奈良時代まで用いられた重弧文軒平瓦と、付近の水路から採取された奈良時代の様式をもつ複弁蓮華文鎧瓦そして昭和五十一年度から五十三年度までの三回の発掘調査で

発掘されて出土した鷗尾の破片や軒丸瓦等が展示されており、



千本屋廃寺跡からの出土・採集物

では、地方の豪族が各地方を自分の領地として治めていましたが、大化改新詔により、私地私民は廃されて、公地公民制となり、班田収授法が制定されて男女等に差はあるが、口分田が班給されました。また、条里制により耕地も区画されました。山崎にもその時の条里制の遺構が中井・比地・宇原・川戸・河東等で見られたようですが、近年のは場整備事業によつてその姿を消していつたようです。

ところで、大化の改新で始まつた土地公有の班田収授法等は農民にとつては負担が重すぎて逃亡者が出たりするための対策、また、開墾の奨励のためもあって、三世一身法（七二三年）、墾田永年私財法（七四九年）と次々新法が制定され、土地の公有制は崩れ、平安時代の初め頃になると、土地公有の姿は開墾地を基に、私有地となる莊園の始まりとなつていき、公地公民制は崩壊していきました。

## ②平安時代（八世紀末～一二世紀末）

平安時代の山崎町はどうでしよう。

平安時代は桓武天皇が都を、長岡京（十年間）を経て、八世紀末

の七九四年に平安京へ遷都してから一二世紀末の鎌倉幕府誕生までの約四〇〇年間を言います。

山崎歴史郷土館に、平安時代の物として採集されたものが一つあります。それは御名から採集された須恵器の瓶といふ容器です。

須恵器は古墳時代中後期から奈良・平安時代に作られた高温度で焼かれた素焼きの土器ということですが、この御名で採集の「瓶」は、高温度により、器の表面に自然釉が流れたあとがあり、高級感のある焼き物に見えます。

その焼き物を見ながらどのような人が使用していただろうと想像

してみました。考えられることは、御名という場所は、揖保川とその支流である菅野川とが合流した付近で、その北には奈良時代からの千本屋廃寺跡があり、また、廃寺跡に続いて南側には平安時代初期には既に存在する式内社貴船神社（雨祈神社）があります。また、律令制により、寺社には税を免除される田、即ち不輸租田の特権もある神田や寺田もあり、開けた地域であつたように思われます。

このようなことから採取されている容器を見て、御名という地域は、寺社の隣接地でもあり、裕福な家々があつたのではないかと想像したりもします。

しかし、一方では、当時は二つの川の氾濫もあつたようで、自然災害との対応も大変であった事だと思います。

さて、山崎町の古代の歴史を、山崎歴史郷土館の展示物を通して二度にわたり推理、考察しながら紹介してきましたが、歴史は歴史資料を観察し、また現地を探訪することにより、歴史に興味を持ち、歴史が好きになるのではと思ひます。

最近は歴史教育も詰め込み教育だけでなく、思考力・考査力重視に変わり、資料を活用し推理考査することが大切であると聞いています。どうぞ郷土館を利用して郷土史を楽しん下さい。



御名採集の須恵器瓶

## 比地条里の研究

金谷の条里地割を中心にして

片山昭悟

確認して考察をおこなつたことについて述べる。

### 一、金谷地区の条里地割について

#### 一、はじめに

宍粟市内の条里地割の研究については、すでに『山崎町史』、『一宮町史』、『ふるさと安富』、『安富町史 通史編』に詳しく紹介されている。

条里制とは、一町方格の土地区画をつくる古代から中世にかけて行われた土木工事である。「三十六町を一里となし三十六里を条となる」とされる。

一町方格の区画を坪と呼び、坪が縦横方向に各六個、三十六個で一里と呼んでいる。東西方向の列を条、南北方向の列を里と呼ぶ。条里制については、『山崎町史』によると、大化革新（六四五）以前に長地式地割のあるところが遡ると考えられてきた。

山崎町においてかつて小規模であるが、金谷、上比地、中比地、中井、川戸、宇原、中、神谷などに条里地割が存在していた。

比地条里的区域は、昭和五十一年（一九七六）から昭和五十五年（一九八〇）にかけて団体営ほ場整備事業により条里の原形を留めてない。

今回金谷地区の条里地割を中心にして、どこを基準にして条里地割をつくったか、いつごろ条里地割をつくったか、当時の条里地割は、いつごろの時代かなど独自の視点から現地を調査して、検討し

り現在の地図では知ることはわずかしか確認できません。

当時比地条里区域内の昭和五十一年度（一九七六）ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財確認調査をされた兵庫県教育委員会のほ場整備前の金谷地区の地図をご提供いただいたことから、比地条里の区域内の金谷地区を中心に条里地割について地形の復原を含めて考察を試みる。

金谷の通称「下田んぼ」については、明治三十九年（一九〇六）生まれの故片山猛氏と故光岡茂一氏より字名、呼び名、溝の名、溝筋などの聞き取り調査を平成二年（一九九〇）頃に行つた。

聞き取り調査の結果、比地条里に関するものと思われる遺称地として字名は、南北筋より西から「蛭町筋（ひるまちすじ）」・「荒木筋（あらきすじ）」・「安田筋（やすだすじ）」・「蟻留筋（ありどめすじ）」に分かれる。いずれも字名には、筋（すじ）が付くのが特徴である。

田の呼び名には、「くもんぼ」、「むくがつぼ」、「大町（おおまち）」、「長町（ながまち）」、「高町（たかまち）」、「がんがちょう」、「五反田（ごたんだ）」、「つくでん」の通称がみられる。

中比地田では、「市ノ坪（いちのつぼ）」の通称がみられる。  
御名田は、「にげんど」の通称がみられる。

溝の名は、「大溝（おおみぞ）」、「こみぞ」の通称がみられる。

「荒木筋」と「安田筋」の境溝名は、「大溝」の通称である。

金谷の字名は、南北筋によつて字名が分けられることからみて時期的に条里地割が古くから存在していたものと考えられる。

「がんがちよう」の呼び名は、江戸時代の延宝六年（一六七八）「金谷村年貢帳」に記載されていたことが今回の聞き取り調査によつてわかつた。

「市ノ坪（いちのつぼ）」、「むくがつぼ」などの坪の付く呼び名が存在するが条里地割に伴うものは現時点では不明である。このため坪の順番が千鳥式か並行式にあてはまるかどうかは今後の調査によつて解明されるものと考えられる。

### 三、比地条里について

地形復原によつて比地条里の範囲は、金谷、中比地、上比地、千本屋、御名にかけての範囲になることがほぼ明らかになつた。

条里は、普通山とか谷とかを基準にしている。このことから考えると、金谷の「荒木筋」を北方向に向けると、最上山の通称千畳敷にあたり、南方向をみると中比地の西山の尾根筋続きの中で小高い山にラインが一直線に結ばれることからみて南北の基準と思われる。

東西の基準については、通称「つくでん」から東方向にみて金谷と中比地の村境と思われる。

南の「市ノ坪」付近は、条里の長地式をとどめているところも認められることから古い時期に遡るのではないかとを考えられる。

条里地割の中心線の方位は、磁北から約十度東へ振つているもの

と考えられる。

南北幅一〇〇〇メートル、東西幅四五〇～五五〇メートルが復原可能な範囲である。一坪の幅は、東西南北約一〇九メートルかと考えられる。

比地条里にいえることは、金谷から比地にかけてもつとも条里地割が安定している。

条里の南限は、国見山の裾より発する滝川の氾濫による土砂の堆積により地形が制約されているが、ほぼ中比地の南北道路ではないかと考えられる。一部に南に広がることも考えられる。

通称「むくがつぼ」の南に広がる条里は、山崎南中学校（旧城原中学校）の校舎建設により破壊されているため、地図による条里的地形復原はできなかつた。

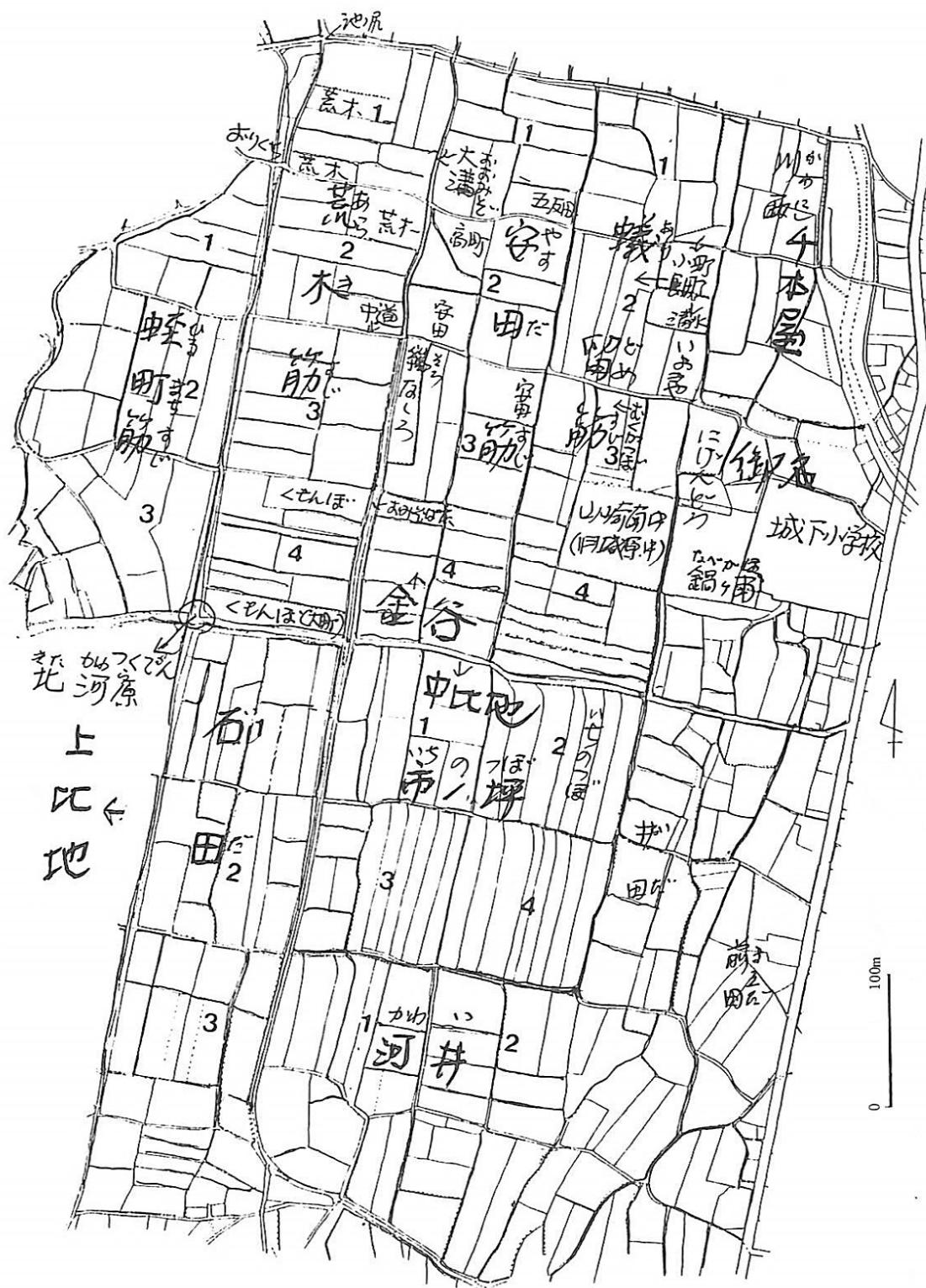
通称「つくでん」の東方向にかけての道路が、金谷と上比地、中比地の村境であり、荒木筋の南方向にかけての道筋が上比地と中比地の村境である。

また、金谷の「蟻留筋」の東溝筋が千本屋で、金谷の東西方向の中道から南が御名で、「にげんどう」が条里の東限であると考えられる。

西限は、「蛭町筋」に条里地割の復原ができるものと思われる。

条里の北限は、「山の下」から千金道路付近ではないかと考える。鶴木と金谷の村境は、やや北に延びる。条里も同じように広がるものではないかと思われるが、亀ヶ尾の山裾から城下小学校にかけては菅野川の氾濫によるものと考えられる。（次号に続く）

鶴木字平田は、比地条里の範疇（はんちゅう）とはならない。金谷の通称「高町（たかまち）」付近は水田に菅野川の氾濫によるものと考えられるそれが認められる。



比地条里地割と字名通称名

## 会員・家族の文芸

### ◎冠 句

もう一度 若き日になり町おこし  
晴やかに どう染め上げるわが余生  
もう一度 手の温もりを感じたい  
晴やかに 金婚夫婦共白髪  
もう一度 歩いてみたい過去の道  
晴やかに 銀鱗光り宙を舞う  
もう一度 会いたい想い夢の中  
晴やかに 大雨あとで雲もなし  
もう一度 当たらないかと宝くじ  
晴やかに 端午の節句鎧着て  
もう一度 奇跡もとめてくじ売場  
晴やかに 記念撮影ハイ！チーズ  
もう一度 やつてみた的な野球づけ  
晴やかに 色とりどりにさつき咲く  
もう一度 研修受けて糧とする  
晴やかに 実習終えて一歩前  
もう一度 火元戸締り寝る前に  
晴やかに 夜空をこがす夏祭り  
もう一度 遠くを見つめやり直す  
晴やかに つばめも新居の下見する  
もう一度 夢の中にも母はなく  
晴やかに 老いも若きも胸を張れ  
もう一度 幼き我が子腕の中  
晴やかに 緑の中を風が吹く  
もう一度 美濃の谷汲参りたま  
晴やかに 箕躰の仲間指を折る

冠句

坂本	坂本	坂本
大谷	志路	忠彦
宇田	志路	志路
飯塚	幸夫	幸夫
飯塚	正浩	正浩
小林	高井	高井
小林	麗子	麗子
小林由佳子	田中	田中
実友	良子	良子
小林由佳子	田中	田中
実友	勉	勉
小林由佳子	千里	千里
嶋津	高井	高井
嶋津	智代	智代
為国真佐行	高井	高井
谷笛	速水美知代	速水美知代
谷笛	宗平	宗平
高井	圭司	圭司
三木ひづる	矢野登次郎	矢野登次郎
中瀬公三	矢野登次郎	矢野登次郎

### ◎俳 句

川端の足湯に憩ふ春の旅  
空の青海の碧さや金盞花  
呼び入れて尽きぬ自慢の白牡丹  
鬼の棲む程の深さよ五月闇  
さくらんぼ宝石のごと輝やけり  
夏服やはち切れそな健康美  
梅雨明けや人の心も平なり  
青田風合唱の声もみずみずし  
会話なくとも夫とゐる夕端居  
玄関で済ます客への扇風機  
青蜥蜴しつぽをみせてひそみおり  
でで虫の戸口はりつく雨の朝  
しなやかに川風流す今年竹  
青田風農の民なる至福かな  
芍薬の散るを早めて一夜雨  
時を経てわが家に馴染む花馬酔木  
老鶯や架け替ふ祖谷のかづら橋  
髪ほどき手櫛で通す色なき風  
遠近の山紫に八月尽  
ふる里の捨て田荒れ畠草いきれ  
氏宮の銀杏の大樹西日濃し  
何事も終末のあり送り盆

※次号に掲載する文芸作品の投稿をお待ちしています  
あわせて新会員を募集しています

里見 和樽

京屋 伊助

杉山美保子

高井 麗子

鳥羽チエノ

三浦 ゆき

高井 智代

高井 智代

速水美知代

宗平 圭司

宗平 圭司

矢野登次郎

矢野登次郎

# 三十年度研修旅行のお知らせ

研修部

平成三十年度の通常総会が開催されました。

## 事務局だより

●日時 九月三十日（日）午前八時集合出発  
午後五時三十分頃帰着（予定）

●集合場所 岡野歯科下駐車場  
大阪府堺市

●行先 仁徳天皇陵（大仙古墳）、堺市博物館、堺町並み散策（清学院、鉄砲鍛冶屋敷、鐵砲館、与謝野晶子生家跡、千利休屋敷跡）堺市博物館では、仁徳天皇陵のVR映像を鑑賞します

\*ボランティアガイドの説明があります。

●参加費 一人 金五、五〇〇円

●昼食（ホテルのバイキング）・入場料を含みます

●申込方法 九月三日（月）より二十一日（金）まで

神姫バス山崎待合所北の神姫観光山崎案内所へお願いします。

時間は、午前十時から午後三時まで。土・日曜祝日は休みです。会員の家族の参加も歓迎します。  
今回は山崎文化協会と合同で実施します。

詳細は、八月発行の会報第一三一号に挿入のパンフレットをご覧ください。

なお、定員になり次第締め切ります。

記 日時 平成三十年四月二十一日（土）午後二時より

場所 宍粟防災センターハイ研修室

議事 一、平成二十九年度事業報告について

二、平成二十九年度監査報告

三、平成三十年度事業計画について

四、平成三十年度会計予算について

以上の各議案は承認されました。

総会終了後、記念講座として、「宍粟夢ヒストリア 北の大地の「宍粟」～北海道開拓団・宍粟農場の挑戦～」を鑑賞しました。

## 編集後記

郷土会報も多くの会員の皆様に支えられて、おかげで一三一号を上梓することができたことに感謝の意を表します。貴重な資料をお届けします。

今回もいざれも専門的、意欲的な力作です。読んでいただいて頗著に出ています。概要を紹介させていただくと、

大谷司郎会長は、昭和三年から昭和十七年まで戦争へ激動の山崎を年表を詳しくまとめられておられる。鎌田裕明さんは、江戸時代の福原謙七の思想について丹念に文献に当たられまとめられておられ、高井淳さんは、福原謙七の生涯についていざれも専門的に調査され、新たに福原謙七の年表を紹介されている。

竹内克司さんは、宍粟藩の初代藩主池田輝澄について蟄居された鳥取市鹿野町の波乱に富んだ生涯の足跡について現地で調査をもとにまとめられている。清水哲さんは、山崎歴史郷土館に展示されている米軍が戦後撮影した山崎の空中写真についてわかりやすく紹介されておられる。

伊藤一郎さんは、石野和雄さんの戦争体験を聞き取り調査されている。浅田耕三さんは、山崎文化協会でご講演され、好評だった鬼と生靈について詳しくまとめていただいた。田中健三さんは、川戸に弁円の墓があることから、当時の弁円と親鸞とのことでいについて貴重な資料を紹介していただいた。河本雅視さんは、山崎歴史郷土館に展示されている千本屋廃寺跡の出土遺物などを紹介していただいた。

私は比地条里の金谷の条里地割について通称名など聞き取り調査を行つた。宗平圭司さんには、会員・家族の冠句や俳句をとりまと

めていただいた。

なお。頂いた原稿については、原文尊重を第一として編集してい

ます。

会報は地道な調査の積み重ねが大切で、地域に結びついたものであること。次に繋ぐものです。これからも「歴史を鑑かがみ」として、山崎郷土研究会報が続くことを願い書き留めます。（片山昭悟）

## 会員の著作紹介

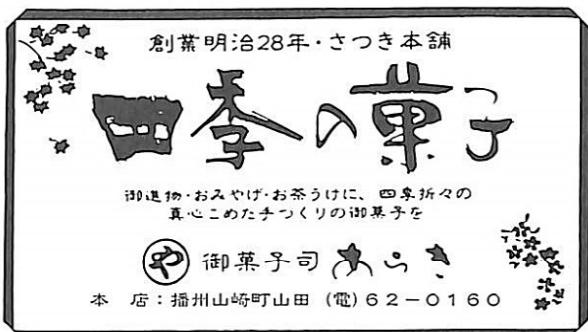
『私の拙い心の雑録集Ⅱ』—宍粟市の梵鐘を中心にして—『私の拙い心の雑録集Ⅲ』—郷土の調査と研究を中心にして—。Ⅱは平成三十年三月三日、Ⅲは同年四月十四日に相次いで発行されました。執筆者の片山昭悟さんは「山崎郷土会報」の会報部長を平成二十五年から務め、年二回、出版の重責を担っています。

氏は市内の梵鐘と奈良時代の鏡を主たるテーマとして、生涯にわたって調査・研究、この間には、金谷古墳出土の鏡のルーツを求め、奈良、長野、宮崎など、そして機会を得て中国をも研究の射程に入りました。その成果は『奈良時代の鏡研究』『奈良時代の鏡紀行』など。関係の図書は、宍粟市立図書館で触れることが出来ます。

「常歩無限」（なみあしむげん）で広い世界を見てきた氏の学びの心の向かうところは、豊かな揖保川の恵みと山崎をとり囲んでいる国見山、篠の丸、高取山、大フゴ山等の幸ゆたかな、ふるさとの自然や歴史、そして文化なのでしょうか。

# いとう画廊

兵庫県宍粟市山崎町山崎413  
TEL(0790)62-0371  
FAX(0790)62-0371



外科・内科  
**山中医院**  
院長 山中潤一

山崎町西町・TEL⑥20036

PHOTO-STUDIO  
*Ueyama*  
P.C.S  
**スタジオウエヤマ**

●山崎店 兵庫県宍粟市山崎町山田204  
TEL(0790)62-8027  
FAX(0790)62-8827



パンフレット・デザイン広告  
名刺・封筒・伝票・新聞広報誌  
ポスター・案内状・シール等

# (有)稻田印刷

〒671-2577 兵庫県宍粟市山崎町山崎454  
TEL(0790)62-0254 FAX(0790)62-4764

# ほっこり、ひといき 伊沢の里

- 各種宴会 祝い、法要、同窓会(送迎バス有り)
- 宿泊 観光、ビジネス 帰省
- 日帰り入浴 生薬風呂、露天風呂、サウナ
- レストラン 御膳、定食、麺類、丼物

兵庫県宍粟市山崎町生谷214-1  
TEL.0790-63-1380 FAX.0790-63-0362  
URL:www.isawanosato.com E-mail:info@isawanosato.com

# 株式会社 安井書店

ブックランド店 本店(文具部)

山崎町中井 山崎町中井  
TEL(64)2051・FAX(64)2052 TEL(62)0700・FAX(62)2117

<http://www.yasuisyoten.co.jp/>

まごころを伝えます。



SANYO HAI  
山陽盃酒造株式会社  
兵庫県宍粟市山崎町山崎28

TEL.0790(62)1010 FAX0790(62)6218  
E-mail info@sanyouhai.com HP <http://www.sanyouhai.com>